

近畿、全国のみなさん、いつも応援ありがとうございます。

コロナ危機をつうじて“政治と社会のあり方はこれでいいのか”が問われています。2021年は総選挙の年。力あわせて「困った人にやさしい政治」をつくるためにがんばります。

国会報告をお届けします。ご覧いただければ幸いです。

山下よしき



（写真上）参院本会議で菅義偉首相に、安倍晋三首相（当時）主催「桜を見る会」と「前夜祭」をめぐる疑惑、新型コロナウイルス感染症対策、菅首相による日本学術会議推薦の会員候補6氏の任命拒否についてたずね（2020年11月30日）

（写真左）障害のある児童生徒が通う特別支援学校の設置基準の策定に向け検討が進められる中、滋賀県の草津養護学校（草津市）を調査。この後、教職員や保護者の方から実情を聞き、三雲養護学校石部分教室（湖南市）も調査（2020年11月10日）



日本共産党

副委員長・参議院議員

山下よしき

【国会事務所】〒100-8962

【近畿ブロック事務所】〒537-0025

東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1123号 TEL:03-6550-1123 FAX:03-6551-1123

大阪市東成区中道1-10-10 ホクシンピース森ノ宮102 TEL:06-6764-9111 FAX:06-6764-9115

日本共産党 参議院議員 山下よしき

ホームページ:

<https://www.yamashita-yoshiki.jp/>



@jcpyamashita

文教科学委員会

学生支援

山下議員は、11月24日の参院文教科学委員会で「食べることに欠く学生が広がっている。学生が困っているのは、手元に現金がないことだ。緊急給付金を再実施すべき」と迫りました。また、給付金を希望者全員が受けられた大学は19%にすぎず「支援が必要な学生の多くが受けられなかった」と批判。萩生田文科相は「予備費を使うことも了解をもらっている。必要な対策は対応したい」と語りました。

また、山下議員は、大学での対面授業・施設利用の再開は、学生の強い願いだとして、実現にむけて大学とともに知恵を出し合い、必要な支援を考えるべきだと求めました。

スポーツくじ

山下議員は、12月1日の参院の文教科学委員会で、サッカーくじの対象にバスケットボールのBリーグを加え、単一試合くじを盛り込んだ「改正」案について「射幸性を高め、八百長などの不正行為が入りやすくなり、金銭絡みの勝敗の結果のみにこだわる傾向を助長する」と批判。賭けに外れた人がSNSで中傷し、選手がうつ病や引退に追い込まれた海外の事例を挙げてたずねと、提案者は「新たな緊張を生んではならない。委員のご指摘の通り」と答えざるをえませんでした。

2020年活動報告

環境委員会

石炭火力

山下議員は、5月21日の参院環境委員会で、CO2を大量排出する石炭火力発電所の新規建設が、小泉進次郎環境相の地元神奈川県横須賀市で行われていることを、現地の調査を踏まえて告発。建設中止を迫ると小泉大臣は「横須賀だけを考えるのではなく地球規模の課題として取り組む」と答弁。山下議員は「足元の横須賀のことを見直さなくては、なんで地球全体を考えられるのか」と厳しく批判しました。



横須賀市の石炭火力を調査（2月22日）



神戸市の神鋼石炭火力を調査（2月25日）

石綿対策

山下議員は、5月28日の参院環境委員会で、規制対象となつた「レベル3建材」が古い工場建屋の壁や屋根に大量に使用されており、解体時にアスベストが飛散して、周辺住民や子どもたちがさらされる危険性が高いことを、調査した大阪市西淀川区の実態から告発。事前調査の対象とするだけでなく、解体時の隔離養生、集じん・廃棄装置の設置も義務化すべきと提起。小泉環境相が、義務化は考えていないと述べたのに対し「アスベスト健康被害の一番の教訓は、国が危険性を知りながら規制権限を行使しなかつたことだ」と厳しく批判しました。



アスベスト飛散に懸念 老朽化工場など調査 大阪・西淀川（4月5日）



「レベル3」の石綿含有成形板を示し質問（5月28日）

山下議員は、5月28日の参院環境委員会で、規制対象となつた

山下よしき 2020年 質問一覧 201国会

1月24日 本会議	「桜」疑惑 雇用 外交 気候変動 国民の声に背く政治追及
5月21日 環境委	CO2削減を強めよ「三つの立場」提案
5月28日 環境委	石綿飛散の対策不十分 “国は規制権限行使を”
6月8日 本会議	コロナ対策 雇調金支給の迅速化を 第2次補正予算案

203国会

11月17日 文科委	支援学校に設置基準必要と文科相が明言
11月24日 文科委	学生への再給付早く 対象の拡大も切実
11月30日 本会議	感染爆発止める「4つの提案」 「桜」、学術会議 19年度決算
12月1日 文科委	選手への中傷に懸念 サッカーくじ バスケット単一試合導入案反対

「よしキッチン」が大好評

ツイッターで「料理をしながら政治を語る」山下議員の「よしキッチン」が好評で、再生回数が77万回を超えた動画も。もともと料理が趣味の山下議員は、政府与党のひどい政治に憤った時に料理をすることでストレス発散していました。それに着想を得て動画に。「手際よさそうですばらしく、かなりの料理の腕前とみました」と週刊文春のコラムで取り上げてくれた料理エッセイで有名な平松洋子さんの評。朝日新聞デジタルでも「政治は生活。これ、こういうことだよ」と取り上げられ話題になりました。ぜひご覧ください



（「よしキッチン」で検索。）

山下議員は、2020年、参院本会議で3回首相に質問。コロナ対策、「桜を見る会」などをたどりました。

コロナ対策 「感染爆発は何としても止めなくてはならない」と、PCR検査の抜本的な拡充、トレーサーの確保、ひっ迫する医療機関へ減収補てん、「GoToトラベル」見直しと中小業者への直接支援を提案。「このままでは年が越せない」との声も広がっており、予備費を活用し、暮らしと雇用、営業を支えるよう迫りました。(11月30日、2019年度決算質疑)

また、「雇用危機を回避し、暮らしを守ることは政治の最大の使命だ」と強調。具体策として、雇用調整助成金支給の迅速化、家賃補助の対象の拡大、生活保護決定の迅速化や住宅扶助引き上げ、学校再開にあたっての教員10万人増、文化芸術復興基金の創設を求めました。(6月8日、2020年度第2次補正予算案質疑)

桜を見る会 安倍晋三首相(当時)側の「前夜祭」の費用補てんが事実なら、公職選挙法と政治資金規正法への違反は明白であり、首相が1年間もウソをついていたのは「国会と国民を愚弄(ぐろう)するものだ」と批判。官房長官として安倍氏と同じ答弁を繰り返した菅義偉首相の責任は重大だとし、安倍氏の証人喚問実現を自民党総裁として決断するよう迫りました。(11月)

また、「長年の慣行で招待者数が膨らんだ」とする安倍首相に「問われているのは『長年の慣行』ではなく、首相自身が行った私物化だ」とたどりました。(1月24日、代表質問)

学術会議 菅首相による日本学術会議推薦の会員候補6氏の任命拒否について「強権をもって異論を排除する政治に未来はない」と批判。菅首相は「適切に判断を行った」と繰り返し、広がる抗議の声に背を向けました。(11月)

雇用 安倍首相が拡大を表明したフリーランスについて、「解雇も企業の自由勝手に、労働者の権利ゼロ、究極の使い捨て労働だ」と告発。中小企業支援と合わせた最低賃金引き上げ、正社員が当たり前のルール、長時間労働の是正を求めました。(1月)

外交 トランプ米大統領が在日米軍駐留経費の負担増を安倍首相に求めたと公言しており「不当な増額要求は拒否すべきだ」と主張。中国による領海侵犯の激増・常態化、香港市民の弾圧・人権侵害について、「安倍首相は『憂慮する』と述べただけで、抗議一つしない情けない外交だ」と批判しました。(1月)

石炭火力 石炭火力発電所の建設を国内外で推進する安倍政権は、石炭火力からの脱却をめざす世界の流れに反すると批判。「2050年までに温室効果ガスの排出量を『実質ゼロ』にするための戦略立案に直ちに取り組むべきだ」と主張しました。(1月)

よしきsPhoto



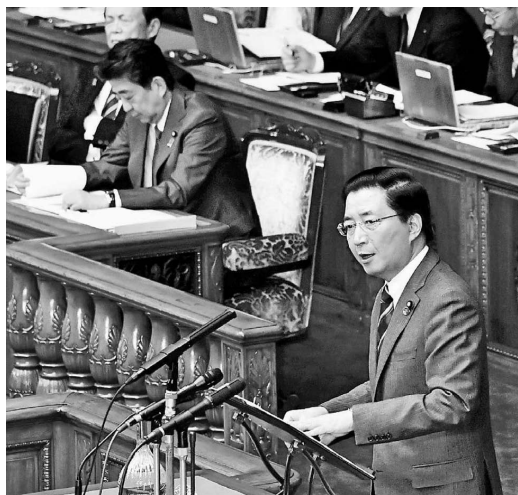
「力を合わせ政権打倒を」と総がかり実行委員会の国会開会日行動(1月20日)



消費税5%減税へ 全中連 決起大会で あいさつ、署名受けとり(2月12日)



奈良県平群町で入党訴え「働きかけに失敗はない」と実感(7月23日)



代表質問で安倍首相に迫る(1月24日)



参院本会議で代表質問(1月24日)

2020年活動報告

■山下議員の質問	■萩生田文科相らの政府答弁
設置基準はつくる方向か	必要だ
設置基準は深刻な教育環境を改善することが目的か	ご指摘の通り※
特別教室を普通教室に転用させない基準にすべきだ	転用は本末転倒。転用を前提とした設置基準は考えていない
カーテン教室は授業に支障をきたす。カーテン教室を繰り返させない設置基準にすべきだ	施設および設備は、指導上、保健衛生上、安全上、管理上適切なものでなければならない※
大阪府など教室不足数を少なく報告している自治体がある	設置者の判断に過ちがないように、しっかり指導していきたい
特別支援学校の大規模化は、子どもたちの成長と発達に深刻な悪影響を与えている	適正規模で先生方の目が行き届く学校が望ましい。設置基準も含めて対応を考えていきたい
期限を設けて計画的に整備を進め、そのために思い切った予算措置、財政措置が必要	財政的なことも含め、期間を決めないインセンティブが発揮できないこともよく分かる

※は瀧本寛初等中等教育局長の答弁

実態と声を示し 文科相に迫る
山下議員は、11月17日の参院文教科科学委員会、滋賀などで調査した実態、聞き取った父母、教職員の声を示しながら、設置基準策定の必要性について質問。萩生田光一文科大臣は「必要だ」と大臣として初めて述べました。
さらに、山下議員は過大・過密化が進んだ学校では、音楽室などの特別教室が普通教室に転用されたり、教師が子どもの顔と名前を覚え切れず関係の構築に困難が生じたりしていることを紹介。既設の特別支援学校も設置

「涙出るほどうれしい」と保護者のみなさん
調査でお話を聞いた草津養護学校のPTAの会長さんは「私たちの思いを届けていただき、涙が出るほどうれしかった。18年間運動を続けてきた分離・新設を実現したい」と話しました。同校に23年務めた教員の方は「子どもを大事にする設置基準の必要性を話していただき、非常にうれしい。適正規模で障害種別に応じた設置基準にしてほしい」と語りました。
基準を満たすよう整備することが重要だと強調。期限を設けた計画的整備と、都道府県の取り組みを後押しするための思い切った予算措置・財政措置を提案しました。萩生田大臣は「財政的なことも含め、期間を決めてやらないと、なかなかインセンティブ(意欲)が自治体で発揮できないこともよく分かる」と応じました。

特別支援学校 設置基準

「必要」適正規模で文科相答弁 運動と論戦で政治動かす

比較的障害が重い子どもたちが通う特別支援学校で、児童生徒の急増にともなう教室不足や過大・過密化が深刻になっていきます。その背景には、すべての学校にある「設置基準」が、特別支援学校にだけない問題があります。保護者や教職員

が策定を求めて長年運動を重ね、日本共産党も国会で取り上げてきました(山下議員も2019年3月、安倍首相に質問)。

こうした運動と国会論戦などに押され、文科省の有識者会議や中央教育審議会は国に設置基準の策定を要求。関係者からは歓迎の声とともに「現状追認でなく、子どもの成長・発達を保障する設置基準を」との声が上がっています。



特別支援学校の実態示し質問(11月17日)

「希望の日本つこう」と大阪で衆院近畿 比例4予定候補と訴え(9月11日)



大阪住民投票「なくすな大阪市。 権限・財源の格下げ許すな」と 駆ける(10月25日)



「日本学術会議への政治介入は 民主主義への挑戦」と批判 国会 前行動でスピーチ(11月3日)